

アオサ回収による干潟の環境保全効果に対する経済評価

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-06-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 棧敷, 孝浩 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2006619

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



アオサ回収による干潟の環境保全効果 に対する経済評価



【研究課題名】

水産バイオマスの資源化技術開発委託事業（水産庁）

【実施年度】 平成21～23年度

経営経済研究センター 需給・経営グループ

栈敷孝浩

目 的

関東以南の大都市周辺にある内湾では、アオサ（緑藻）の大量発生（図）による悪臭の発生やアサリなどを窒息・死滅させる被害が問題となっています。地方自治体などでは、内湾域の環境保全のために、今後もアオサの回収を継続していく必要があります。そこで、アオサ回収に要する多額の公的支出に対して、住民の合意を得ていくためにはアオサ回収の経済的な評価をすることが重要です。

本研究では、福岡市の和白干潟を対象として、アオサ回収による環境保全効果を経済的に評価しました。

結果と解析

分析にあたっては、2009年7月に実施した住民へのアンケート調査のデータをもとに、干潟の環境保全効果という非市場財の効果を金額として評価することのできる、仮想市場評価法（CVM）を適用しました。

分析の結果、アオサ回収による環境保全効果の経済的な価値は、年間1世帯当たり平均7,257円、総便益10,715万円と評価されました。また、アオサ回収による環境保全効果の総便益（10,715万円）は、回収経費（3,851万円）の約2.8倍に相当することが明らかとなりました。

つまり、アオサ回収の経済的な妥当性が評価され、今後もアオサの回収を継続していくことを支持する結果が得られました。

波及効果

回収されたアオサの利用法として、バイオマスエネルギー源としての利用が考えられます。現時点では、アオサのバイオマスエネルギーとしての利用には、生産コストの高い点が問題となっています。しかし、原料調達（アオサ回収）において、環境保全効果の経済的な価値が社会的に認知されれば、バイオマスエネルギーへの利用可能性を高めることも期待されると思います。

参考文献

栈敷孝浩・清水幾太郎・玉置泰司・田坂行男（2010）. アオサ回収による環境保全効果の経済評価－福岡市の和白干潟を事例として－. 北日本漁業 38：109-122.



【アオサ回収前】

【アオサ回収後】

図 アオサ回収前後における干潟のイメージ
注）写真は福岡市港湾局（左）および栈敷ほか（2010）（右）より入手。